

仇 叛

金毘羅神靈記

^ 13
3324
1



門八13
3324
1

文 化 戊 辰 新 刻

速水春曉齋畫圖

金毘羅神靈記

書林

文榮堂發行

金毘羅神靈記序

大正十年八月廿九日
本大學出版部

余客歲遊京師寓書價某

家秋雨連日不得山步郊

行目倦於牆鱗瓦身厭賣

腐敗菜殆不堪鬱悶偶探

庭傍書架得裨史金毘羅

神靈記者。枕上燃下。閱之。
其事實。素人口。繪矣。雖非
有新奇。娛人之巧。而孀婦
苦節。遺孤。純孝。其他師友
交接之情。各寫其志。隨讀
隨有感。遂為投其魯魚。正

其刊活。以交。客踏之。莫送
矣。頃日。主人取其書。加以
圈畫。併附剞劂。不日而成。
毛寄書。請余序。余意。蓋是
舉。同欲構思。屬鄙。稿顧。歲
杪。短景。恐過其期。聊記。注

烈以伏紐
 意亞制
 襟神相
 有報所
 均衣



婦婦潔女之像

事以漫書云
 文化丁卯晚冬朔
 淡海新
 赤霞山人誌

(Faint, mostly illegible vertical text in the background of the right page, possibly bleed-through or ghosting from another page.)

夙真夜寐志如秋
霜將孝惟時克
綱帝



夷谷小太郎之像

堀口源太左衛門之像

忌賢嫉能心事崎嶇
貽臭百世特戒貪夫



一刀西斬金店翻
英風死而萬古凜然



八木宗規之像

繪本金毘羅神靈記卷之目錄

發端

高橋次布過と重臣と偉く作

高橋大和守上慶統を弔る圖

酒魔高橋次布の命を編る圖

高橋次布賜劍の活

毒舌壯士談教を圖

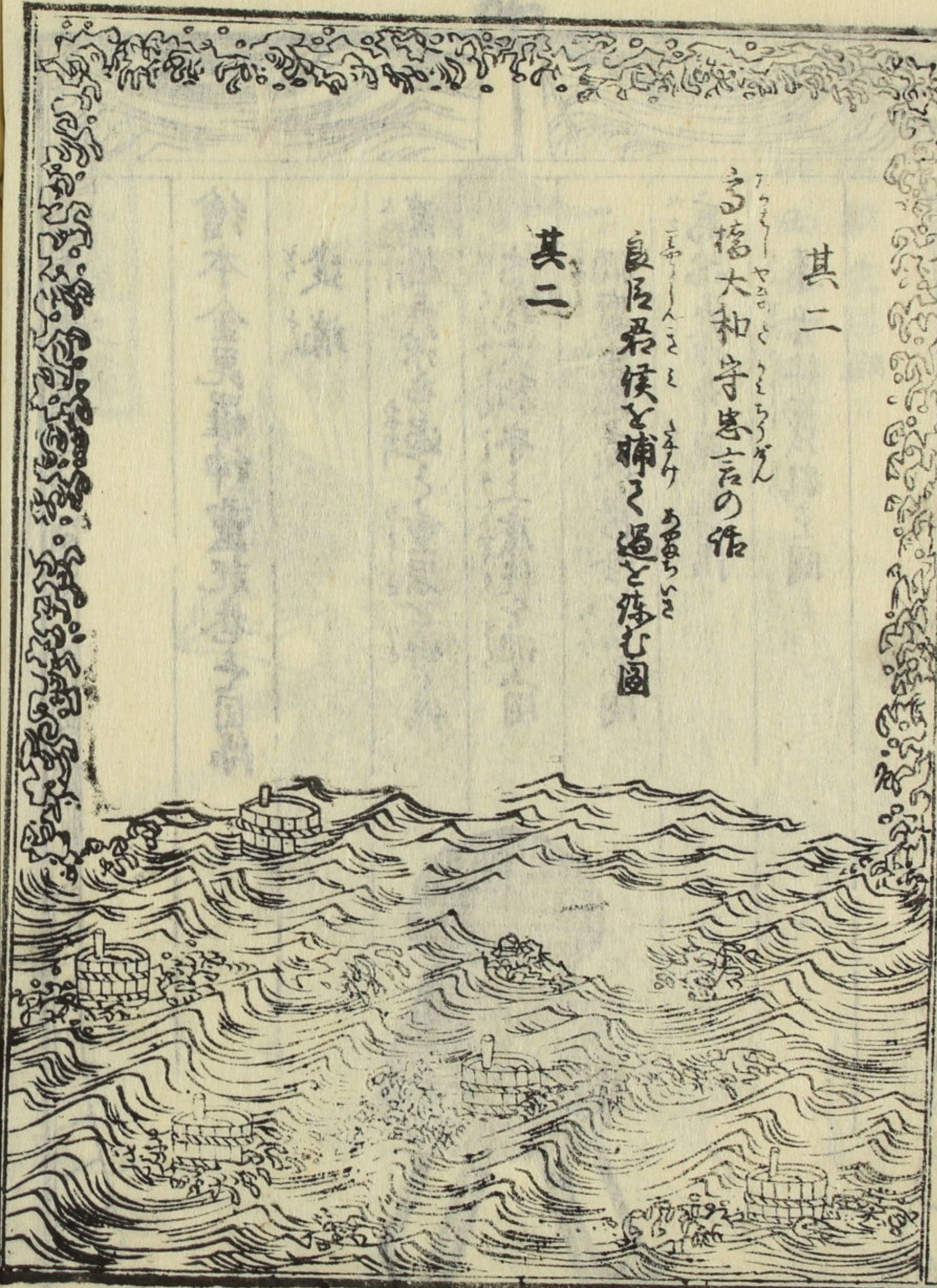


其二

高橋大和守忠言の作

良辰君侯と神と通と傳と

其二



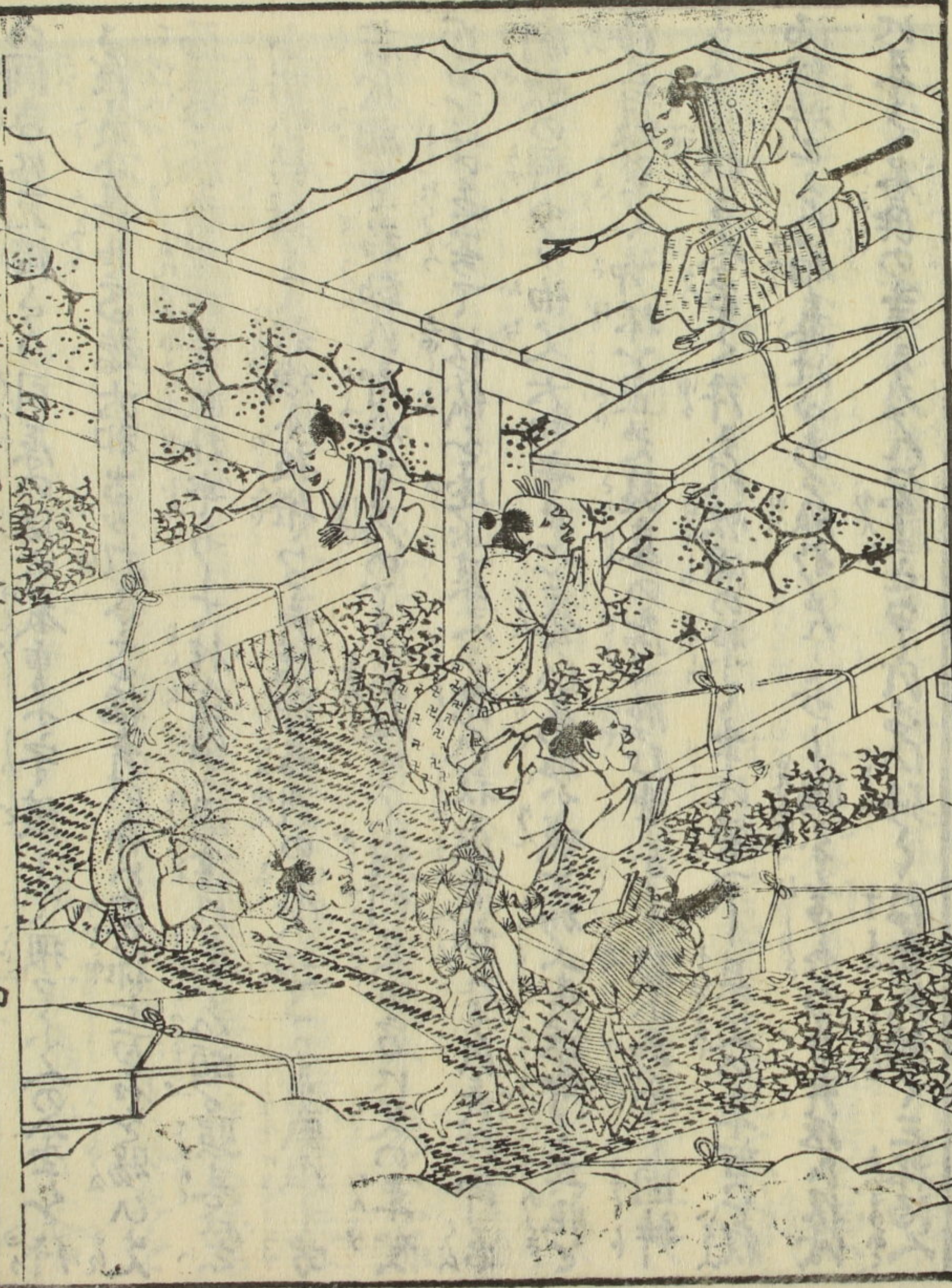
繪本金毘羅神靈記卷之一

發端

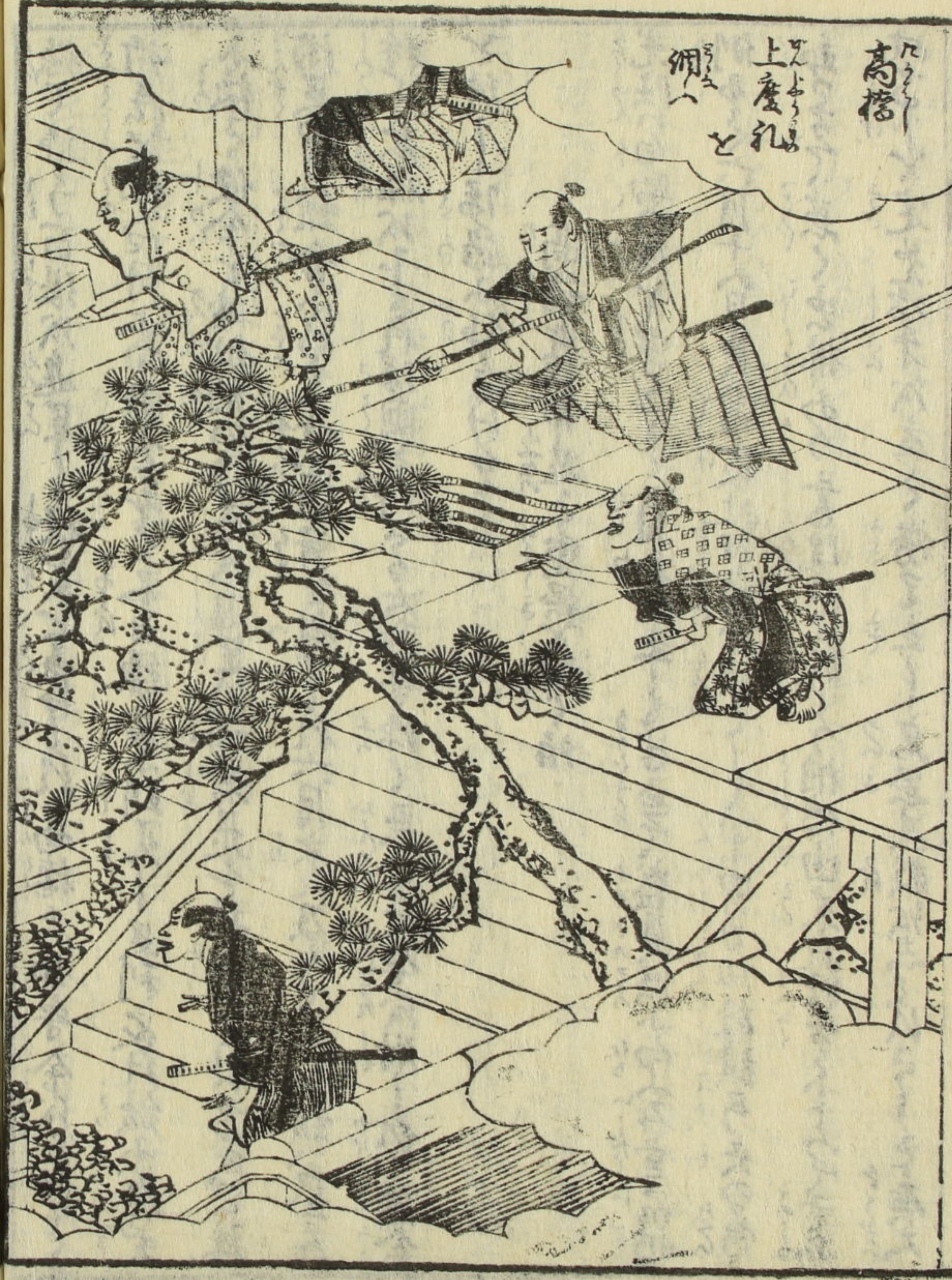
天亂の活中に萌一活の亂小園と興活亂の幸此正邪小園と成と能
又天運乃盛衰小園と物者あり往昔人皇五十六代後醍醐帝此御宇
に而て武居北條高時父祖の功烈を継ぐ天卜れ政柄と事り瑞雲透
樂孤極先盜賊を掃く天の膏血孤臣一加之朝家茂如と事幸救
すの於是帝宸怒一治の官軍と傳一征伐ありて名日に其具は憊一
好くも下も凶器運徳の核一とび動てより運徒東而小隊起一と名
録と持と并吞の勢とふ一逐小は海驛亂一乃民水と小階溺と事
年あり物と小曆應元年不世の英雄皇利吉氏公物余にありと征夷將
軍此職に任と治の法民の塗炭と深く憐と夫石の神汗馬け勞と歎に

海内と平定し、小糸氏の苛政と省し、仁惠を愛公とて、天下と推言し、
 海内と平定し、強梁とて、忠良職任を列し、久万氏徳沢を流し、数服
 てを平と、汝、声道、路、不、絶、各、國、の、法、度、其、武、威、不、伏、一、て、麾下、に、奉、之、以、
 霸、業、此、隆、盛、幸、今、古、比、移、于、時、貞、和、三、年、此、春、吾、氏、の、神、瑞、氣、始、つ、
 冠、禮、以、執、行、不、豫、念、主、勅、の、法、度、希、禮、代、賑、邊、の、面、を、鼓、不、出、く、祝、賀、と、述、べ、
 鼓、細、の、法、宗、家、格、不、應、一、受、奉、以、是、して、鼓、中、に、進、呈、以、祭、業、此、形、狀、想、る、
 だ、一、と、小、周、防、長、門、二、國、の、領、主、石、堂、右、馬、頭、如、基、と、智、勇、兼、備、の、名、將、小、
 一、て、天下、兵、亂、の、際、之、利、の、麾下、に、属、し、戰、功、多、く、不、違、な、く、四、海、神、祚、の、後、
 旧、防、長、二、列、數、十、万、石、の、領、地、お、違、さ、く、安、ん、じ、一、西、方、廣、漠、の、重、任、を、受、
 家、門、連、綿、と、し、て、終、身、を、り、尚、去、足、利、義、隆、に、冠、禮、を、ら、く、祝、賀、有、之、と、
 文、を、圖、る、を、と、り、く、尚、家、子、の、長、居、高、橋、大、和、守、と、使、若、り、て、ま、典、小、
 依、て、侍、り、百、張、紙、進、呈、し、祝、賀、と、表、せ、り、高、橋、大、和、守、命、公、に、け、く、
 行、在、と、謂、く、は、月、上、旬、國、を、歩、く、不、日、練、倉、小、到、名、一、足、利、家、此、鼓、不、出、鳴、を、
 小、依、と、使、命、と、述、狀、納、の、侍、り、以、進、呈、以、鳴、者、是、を、據、考、ま、れ、吾、氏、公、孫、
 浦、良、の、鼓、命、小、を、り、長、途、の、方、と、慰、せ、り、六、月、末、に、及、ん、で、再、い、鼓、不、出、公、
 行、と、思、祿、公、下、さ、れ、帰、國、と、許、さ、り、大、和、守、深、く、恩、命、此、誓、公、附、し、て、練、倉、
 と、許、し、歸、公、お、む、け、と、
 高橋長次郎重忠と傳く治

光隆の白駒の隙と、負和三年も、盛夏候、小、向、石、堂、家、順、
 例、也、く、六、月、十、八、日、小、當、家、此、重、器、公、始、と、し、て、甲、冑、刀、初、禮、旗、馬、矢、の、属、
 也、と、ま、ぐ、慈、く、虫、拂、あ、り、書、院、此、上、版、を、り、相、傳、由、來、此、禮、を、小、し、つ、て、そ、
 け、下、と、定、先、次、牙、公、ま、く、傍、を、ま、し、一、名、其、其、教、公、を、り、一、と、慶、文、



高橋
上座
洞



の同母に充滿より司原の法士表重小守護して根つふ人の入主と許
さばる小長尾高橋大和もがれ子高橋青江の御家祿七百石を賜ひ先
隊長と勤し傑性勇敢朴實より七徳武俊小通連は是と云願ひ願ひ
小幡の弱冠して羽織小披掛する先次郎君恩の意小返りる小感激の方
苦瓜顔と勤勤し即今も若のてくおはせう小同列某が方に父の年賀
あるとはまきりて祝儀を述べ果て小飲ひ祝儀を飲んとい先次郎君
劇飲の癖あり伯父大和守是と憂ひ属禁戒を加へ先次郎も其地と
悔甚及望く御杯と止先誕宴の席へ降じまふ一返小即今も固辞
と云と許主人もよく許され飲酒の禁も来に安べ一果父の年賀と祝
儀成許さる有意味のありぬらんと少一温言まをり先次郎は後
に及く不具の幸も乃んい平さるる小びらひ強くね蓋成傾く三杯酒入

と飲し戒小遠の酒氣稍循環ふんで返小徒来此禁は忘れざる者
瓜巻して劇飲小付と極し某が意と辨一官院小到子と後邂逅の大河小
身體游蕩一久く坐する小堪は涼風小対く碑と退んと官院とが館中
と徘徊して返小秋の同とて今小存官の集り所と云其神者小返りて
見ゆれば姑く虫掛るると知り酒舞小堂へ家後の重窓と一燒せんぞ
守儀の法士一礼とも述べ今年也書院小入ると小存官告りて順
例の虫掛ると根小入幸成許は知られよと先次郎完小と怒ひ小福
外居さるばさる年有べ一某が家長長尾高橋大和もが威属因既小
頭職と多身より重窓と一見せん小何の妨うあらん司原高方と某が
君今瓜巻く守儀の仕り長尾の屬よりそ小許人や強くお見を
頼り君下法と許容の状を携りてあると一先次郎怒意と勤小官

の分して再三の重禮奇懐より君若責詞あはは来向分辯わく何者位
此典ふらふらんや中直小進入んとい同唐官夫冰即が考少夏経理不
乃奉勅小其酒ねらると受んと已矣わんをさるり立きて進せしや此
冰即大も起つ有妻の河を流し流士孤排返さく書院小入る劇飲の上忍
使酒を重上例一耶持物と見る事終る時脚原をさるり中同小傍
ころ者家けま室業ねと名付一柔室の案に源倫小倒不柔室の佩刀得
小面て假塵小傳くも灌面く周章駭げば大冰即も始く母れ頃小流氣
敷ト之伏して不法の状を後悔以同庫官の灌備を意じに長又夫冰即が
罪せられん幸と歎くと終掩隠れんと母わく此却柔室孤捨ひ集光夫冰即
冰二室小排固一長居の履車一其状と通二河よ
高橋夫冰希賜劍の活

君子小人の氷炭の思と共小まぶらうとぞれがどし人君は孤輯さる事お
かざれん亂階是不由て生れ法どんおさるらば高家社長居二文甲
雙守の父祖の封爵と誓ひ防別岩津と居城と一秘二万石瓜糸一方
今長居の別不加て園改に其種性密接ありて邪智深く也政柄孤多て
威持孤振んと巧と能同列る橋大和守才憲忠勇拔群也々照基忠
春遇重く諸士國民の信從尊して威權已が尤小智六邪智共計と施
るれれりもあ不快とて樂に之橋が持孤奪んや計事教育然ども
照基聰明の主ふれ其間とほむ徒不半月以送る功不不意之橋大
即不法の状同唐官を消出甲誓事と小娘ひき小方今日列大和守固小
在代は時不尚て甥彦冰即と重れ罪小陥は時小大和守が橋と奪上
屋寺の一助かり大和守居室の後世事以固く不足の事あは君余に

伏たぎれを名なとして胎たん車しをし推おすは先ま君きみの意いを探たづねます其その後のち辨わかしますて
 以もつて先ま君きみと重ち科か小こ成せいんと委い曲く奸けん智ちが白しろくく禪ぜん一いつ乘じやう車しやと勢せい照てう基き
 の亦また小こ成せいとと快かいをし洋やう小こ述じゆつぶ照てう基き之の量りやうのままま其その尺せき少すくも勢せい款くわんの色をしく
 相あ傳たねん之の名なをしてし破やぶ壊くわいして是こゝ非ひと濁なくて冷やふて其その氏うぢは納のう
 是こゝ一いつ也や令れいせし房ぼう甲かう雙じやう車しや重ちゆう案あん破やぶ却てつの車しやの令れい此こゝ如ごとく是こゝ非ひふらびのい
 夫お郎らう狼らう藉せきの依よりを刑けい罰ばつあらせして向むか照てう基き夫お郎らう即すなはちち誤ごます元げん酒しゆ不ふ
 何なにぞぞ刑けい罰ばつ加かふたれば夫お郎らう不ふ為な其その甚しんむすこゝ不ふ似にれば其その情じやう
 夫お郎らうとらびの所しよ隔かく小こ馬まと馳ち座ざ障じやう小こ大だいとと寝ねせし吳ご車しや不ふ一いつ世せ後ご登とうくは馬ま
 と戒かいむす中ちゆう嚴げん叱しつすて並なべしせしありしるる甲かう雙じやう車しや重ちゆう案あん破やぶ却てつとと寄きりり
 車しや完わん仁にんの所しよ改かい通たうととややかからら其その一いつとと如ごとく其その二にががあらははるる故ゆゑにに尚なほ未ま詳じやう先せん

代たより相あ傳たねんの重ちゆう案あん破やぶ却てつ酒しゆ狂きやうわわかか禪ぜん一いつ乘じやう車しや罪つみをし種しゆかかひひ物ものとと罪つみ一いつ結けつぶんんんが
 以もつて酒しゆ無む小こ車しや不ふ法ぽうははるる若わらばははかか何なにをし置ち志しのの小こ大だいとと且かつ犯はん先せんの道みち
 物ものにに情じやうははるる不ふ孝かうもも尚なほあらべし再また一いつ雙じやう車しや重ちゆう案あん破やぶ却てつとと物ものとと照てう基き
 今いまをしめしるる先せんの道みちをし愛あい惜じやくすてはは何なにぞぞ何なにととはは物ものとと罪つみもも望ぼう希き世せ名な定ぢやうんん
 一いつ結けつぶんににあらははるる車しやあらははるる夫お郎らう即すなはちち今いま此こゝ罪つみとと寄きりり一いつ也や其その忠ちゆうとと
 思おもひひ車しや以もつて保たもちちてて一いつ令れい此こゝ如ごとく是こゝ非ひと濁なくて冷やふて其その氏うぢは納のう
 夫お郎らう一いつ也や令れいせし房ぼう甲かう雙じやう車しや重ちゆう案あん破やぶ却てつとと寄きりり一いつ也や其その忠ちゆうとと
 甲かう雙じやう車しや重ちゆう案あん破やぶ却てつとと寄きりり一いつ也や其その忠ちゆうとと
 君きみの令れいをし後ごににあらははるる故ゆゑにに尚なほ未ま詳じやう先せんの道みちをし愛あい惜じやくすてはは何なにぞぞ何なにととはは物ものとと罪つみもも望ぼう希き世せ名な定ぢやうんん
 素す信しん不ふ思おもひひをし後ごににあらははるる故ゆゑにに尚なほ未ま詳じやう先せんの道みちをし愛あい惜じやくすてはは何なにぞぞ何なにととはは物ものとと罪つみもも望ぼう希き世せ名な定ぢやうんん
 嗚う呼こ下げ氏うぢ為なるる不ふ思おもひひをし後ごににあらははるる故ゆゑにに尚なほ未ま詳じやう先せんの道みちをし愛あい惜じやくすてはは何なにぞぞ何なにととはは物ものとと罪つみもも望ぼう希き世せ名な定ぢやうんん

あて罪と宥さるる中津浦以後典典人刑と為るとも招きあひ必定
にひは國家驗礼の基小悪されは大濠を礼の本文も是等此幸也
あはれ君の仇悪坊う不化る中津浦の立証長身三神更も此犯一作夫
次郎不赦く何分刑罰有く物とて中津浦を打く云一公照基後姑
の海法不為て國の妨中あつた事もや思ひほひらん良法思あつて
汝が法然止ごう一昨日彼中おれて自とて今へ一又思ふ子細あつた後
洞と若知はだ一や申奨身辨告公辨て照基此種と惑一夫次
郎刑罰有く不定一は公申中ふ喜び畏とや津浦公返と有司不
合公徳之度同の意上不法の如く刑場と殺け再び津浦に如く殺と速く
照基道情瓜徒く度回へおるあつた二又甲奨守と漸次登察の面く信坐
非常公誓むる橋立本仰の白衣小浪更上下公忌一刑罰不徳とて

刑場小半く今公法は時登察完戸の在場と橋立本又降と其あはれ
礼も用く礼儀の守とて俾一兼不徳のむらう依之重科小處せしむる
変化意と自命令らるる難有なへ一や今公法は小津浦即送て君
合此身杖射は縋く辺村思孫之節廟とて裁する之方と左津浦
あはれ其時照基道信小おせ孫の家切柄の口公如くを急と小うう之へ小
津浦即懲罪と以て干城の仕士公先へに惡くと能國の典故有く原が
公小候は用く自分小務とて御愛情の情と表はせし先次郎が後平
公のうへ夫公即へ其加うた津浦なりや両眼小涙と流見流るる之方
孤取て押戴制を照基首公討うた公孫の古誓不違はたの首は津浦
計切強一着ら届へ候傾も孫の事其内小有合徳士あつて感は照基後津
あり乃公迫侍不授も小奥へ入給へ満座の徳士は不賛侍同共も照基

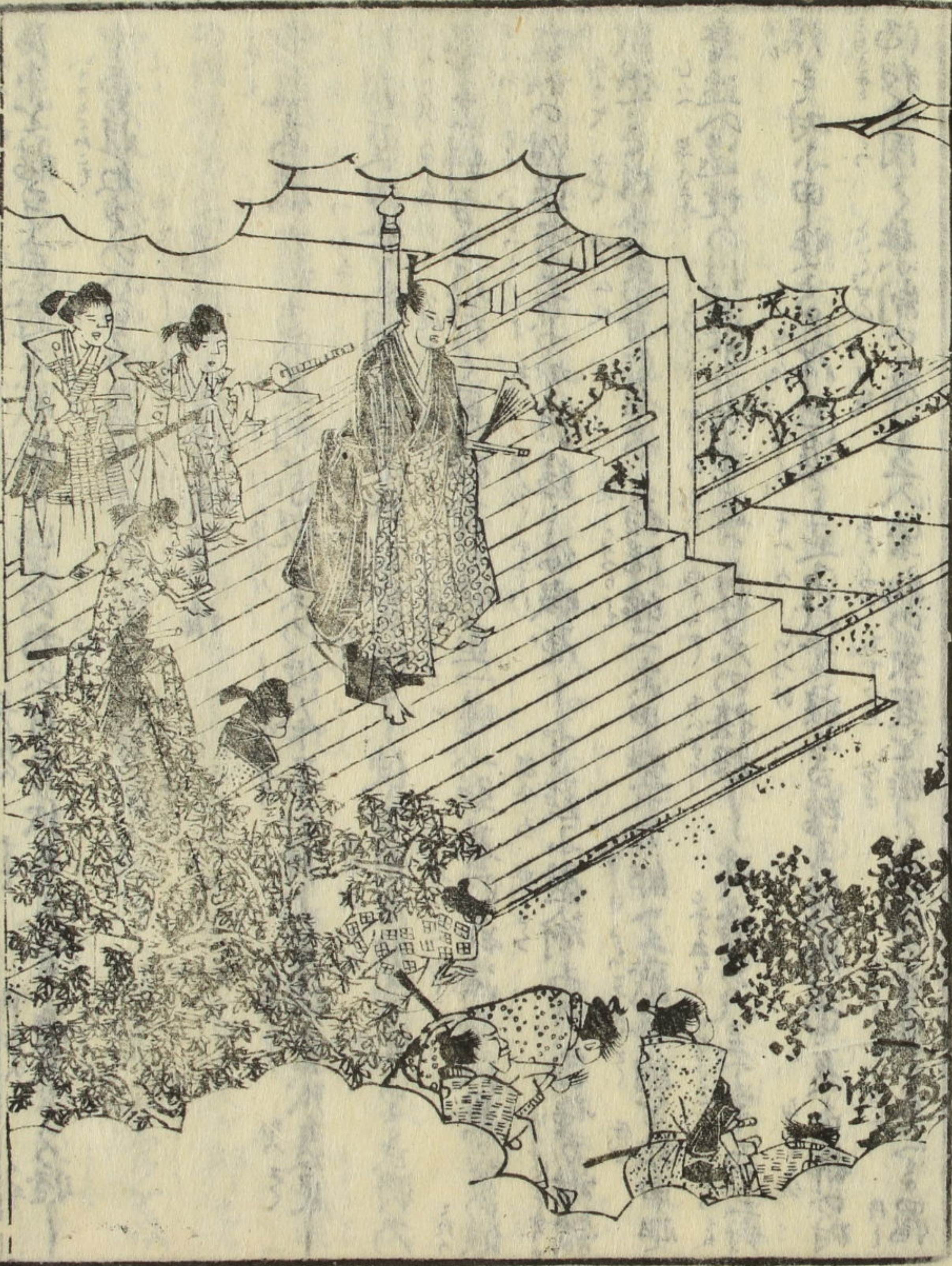


金田羅永 要義卷一



新吉
壯士を
殺す

金田羅永 要義卷一



下と情の恩遇不感敵一は若の小人命依存人幸慶亦くう時
を勇壯ぬものいさうりる

高橋大和守忠言の語

却説高橋大和守は是利家祝賀の使令早七月上旬鎌倉公府
日月交日を美園不帰し即日登城し使令首尾能事早に武將乃
喜之軒るは行く恩禄あり状亟に述ふ照其暇表淡りか以累年
遠路の性返芳若おか以後、休暇を一せ懸小慰諭あり高橋方謝
瓜退を暇小美成旨のりる高橋は二文甲斐守を邸へ去越陣固と報甲斐
守連へ遠境の性還せ矢幸速に祝賀の接扱し此各方此美事あ二封
信を封小甲斐守と席と進み是下れ幸族を信是既即尚夏虫掛の時
酒不周く禁制の席へ入柴取の象と確く相傳の事と契り罷

怪くはして自ら小交せ居某熱思人に禁制の席へ去り去る名を破
碑し幸急例公推小周く罷死小高信や経酒後されはる若例と
栄美あり留刑罰と近され是下此陣固派信再之商儀を如く刑罰の由
有へ一せ再急意と小及ぶと惟祖宗より傳あり去の事と去し幸
安くは且夫次即執政の通解ると以幸延引小及ぶと固く國長を威
控え難くして遂小品日刑罰派加られぬれとも是下此貴族且勇烈の仕
主と情の恩遇不感敵一は若の小人命依存人幸慶亦くう時
物と信若る信が意不平孤憤くや居成信む信格左右の返若く長途
の性返芳若るれもあはれ日信く幸と疾ぎ一せ別と若二文が郎を
如其の登城は已お知すの海されは照其暇表淡りか以累年
高橋大和守忠言の幸宵て其の知はし一旨と若照其暇の終に信子

對面あり長途の勞苦はも厭はれ登嶽をえふ一山の急幸あり
大和を平伏し別の子細ありは臣不才の命と長く大任不備を其思ふ
かた今夜も御政の任退罷下まへしは休と清まらん物出仕は既暮也
故愛給ひ某不才にいて臣民と世濟幸能は先君の命忍み終不備に
補防不依て猶大誠を免すを以て遠任孤輝する幸國家の柱石と爲す
如く某之過ありて輔不足とごんがれ某方今汝小罪を清くそ
は然る海空位の原海が親屬先次郎と刑得せし一事あり思ふに刑
罪小當りは是と格せんすれども後が訪るるとは佛願の法は不為人事を
思ふ又云ざれば其任中肯くが故也幸に任任孤輝を少く眼や大和を平
務るに不當今畏入いそ後即依に腹の物小を神と汎しとと蔑如せざる寄
恩流大科にも處せられしととす准しとる刑と加ふし平居肺肝を慮す

難有るは何れを恨まれば程あり又臣愚昧なる大任と蒙り以て刑罰を
費小おめて當ざるやあはば親戚仇讎ありとを隠をれ不備あり其依
に能く御政ありて大和を平伏し子細も作給ひ御小居が情を免めんと
不速に眼を基に許給ひは某も其あはば即時不敗を以て退去の幸に
思ふ故に強て止る一是某が爲る已小ありは國家の久安と希む
せし御政命ありは大和を平伏し不意流と流し大和の下を以て之れ
く陶朱公が名を後臣を得れば地は再び到る事勿きと陳希夷が至論
皆万世不易の格言小作臣明主の御遇瓜更く後世居の上小ありは國
政勢小興と言ひは計用られ今已小救十年小及び後直の地と上は
下に之幸居の石小ありは其形一偶然恭賀の名を成るなり思怖不備
は上久しく死後を慕ひ元龍の悔ありと人々を憐れし物あり

其長子愚昧なるが厭はるる再三命令とあり辨しあふ河かし令なり
 ぼひ今當受給を妨る也一松上り上層と幸あり一逆一許許容あき
 盟書瓜賜ひるは長一令瓜楊まへ愚力と盡く一怒り一怒り一怒り一怒り
 伺ひまきくしりて懸基二儀もも乃に許容はる大和寺庵も傍たる料紙
 紙面養子の湯氣と理不極一墨塵流して懸基の前小並思さうゆり
 案紙をさうとべ一せままの況曉中ううお中一はくせ書て若也

誓約之幸

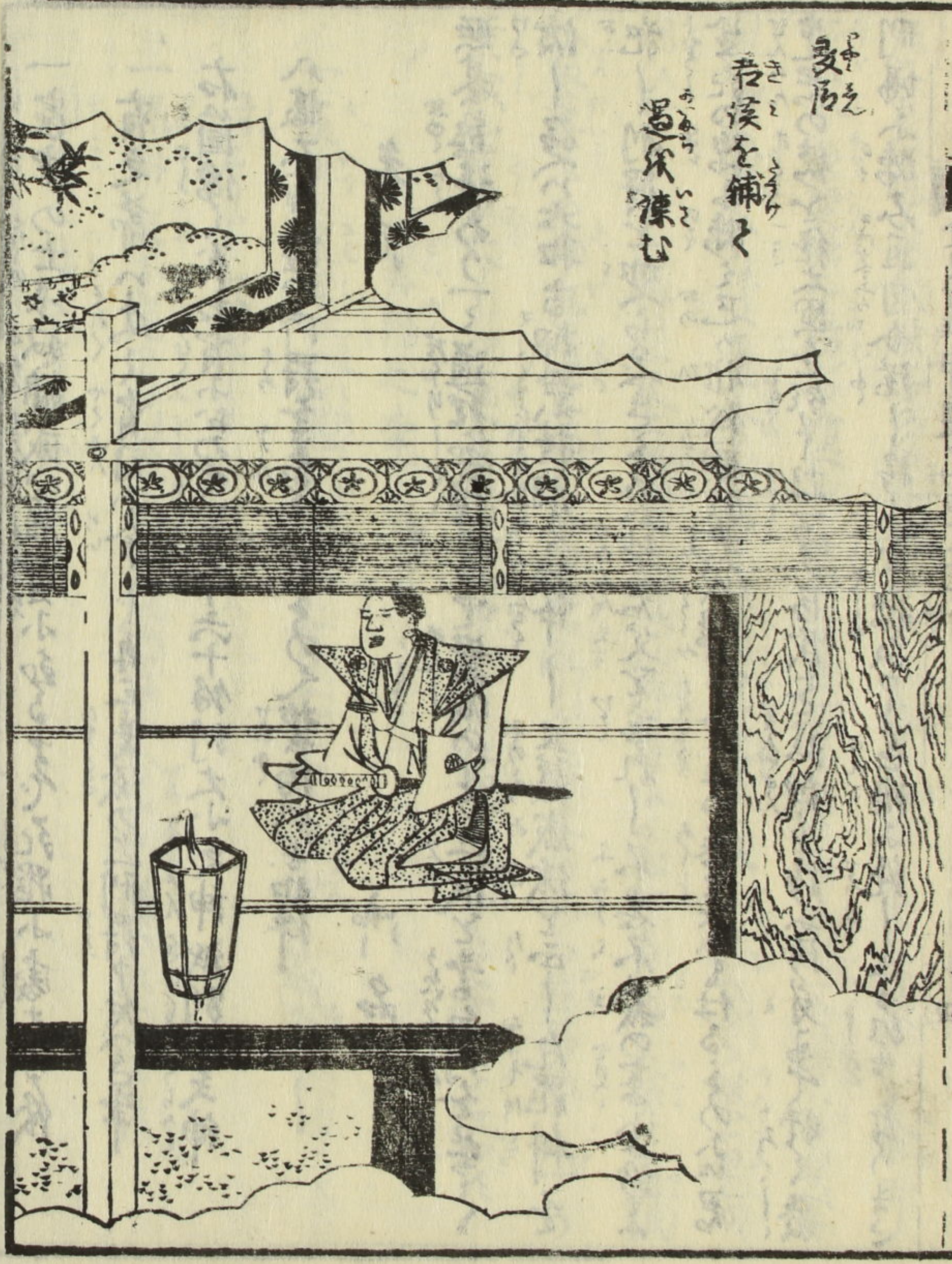
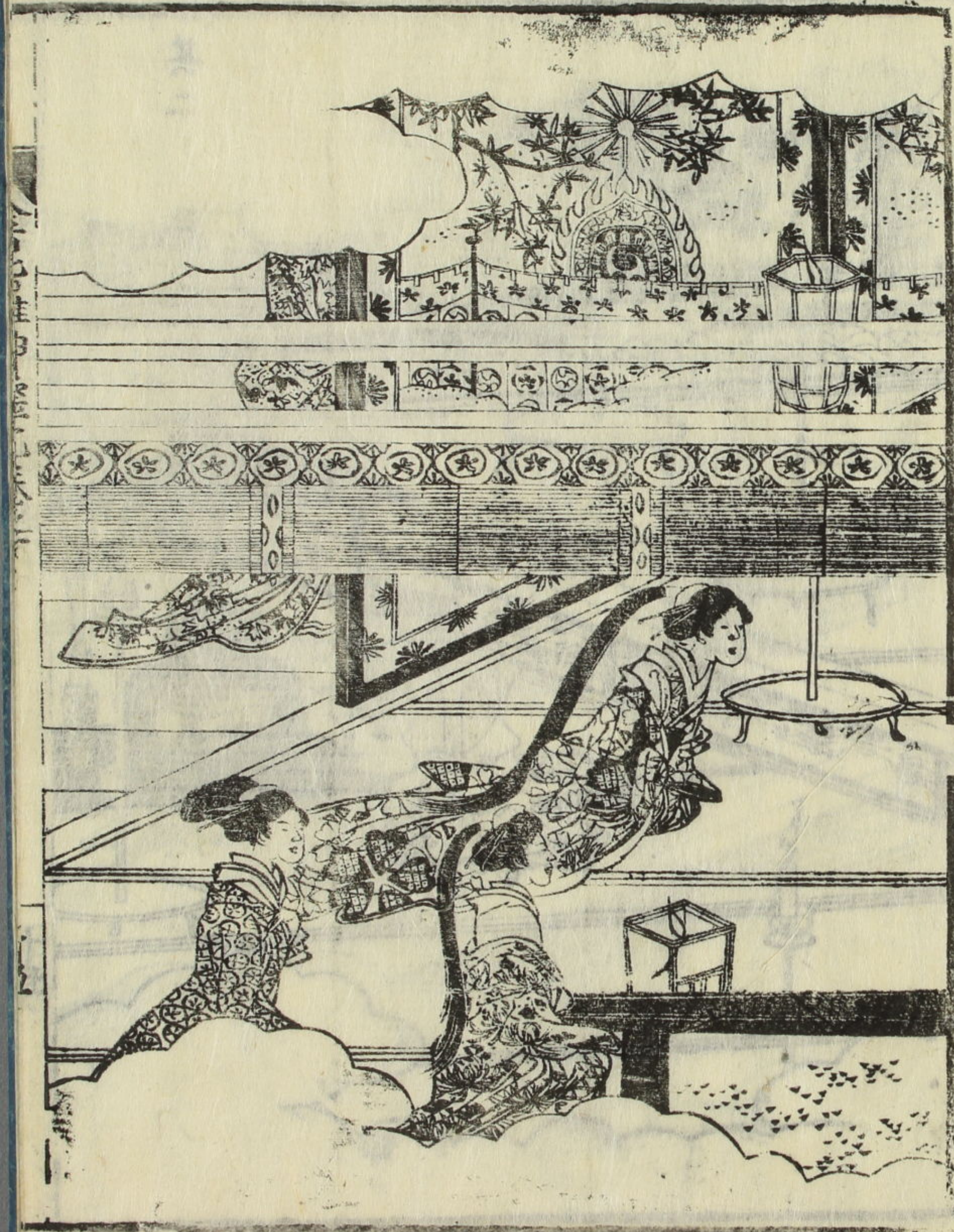
一家中迎侍の幸罪と犯幸有之と長自分も公下り
 付まつたれ幸
 一罪科既不完了刑罰申有依有之長刑場云ふ及も
 同迎へ隠むまつたれ幸

一家中の士女奴婢或ハ農賈小郎も中死罪小處さる依
 有之節ハ長く有司小令ト再三高儀の上刑罰中付へ幸
 右公圖傳く義お宵小おのり日本六十條刑大小之神祇別ハ天神
 八様之菩薩ハ刑罰をさるるもその誓約仍も如件

幸下

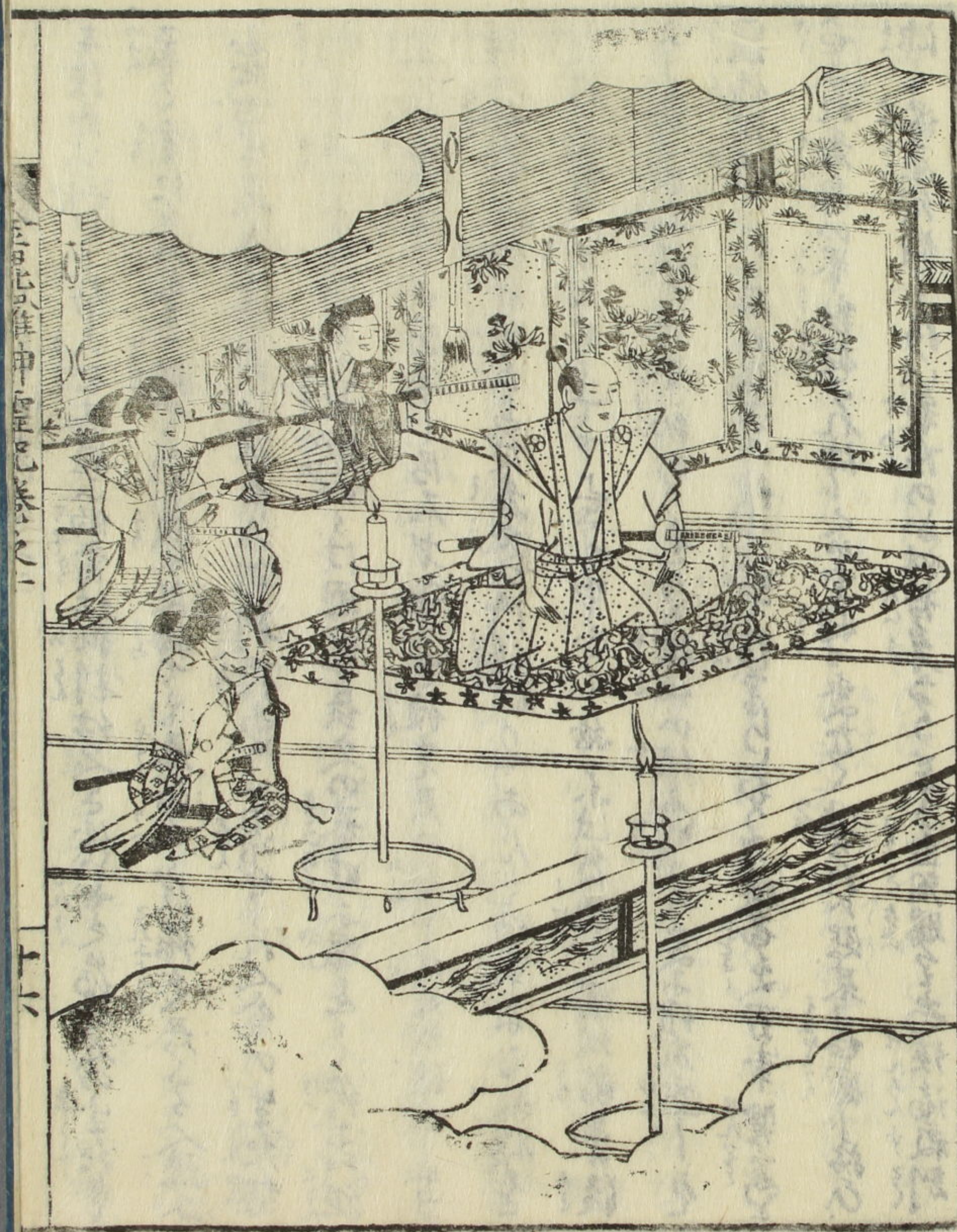
幸名

懸基懸流あり一と道程お極る中案紙のてく一紙と書血判を墨
 波一復ハ大和寺押兼持御之儀中一其後感儀と云一凡罪科を
 犯一刑罰を加らるるも其は皆君父を忘れ一不忠不義の事小はゆ
 生死の際も隠し已ハ非公願ハ君父恨て不忠の暴逆ハもはるそのふ思
 先君の徳と徳之國を敬し教方の居民を結抱し終身身身て野々
 刑場小降み且自分落し終身幸保あり云語不絶一うは歩をりま

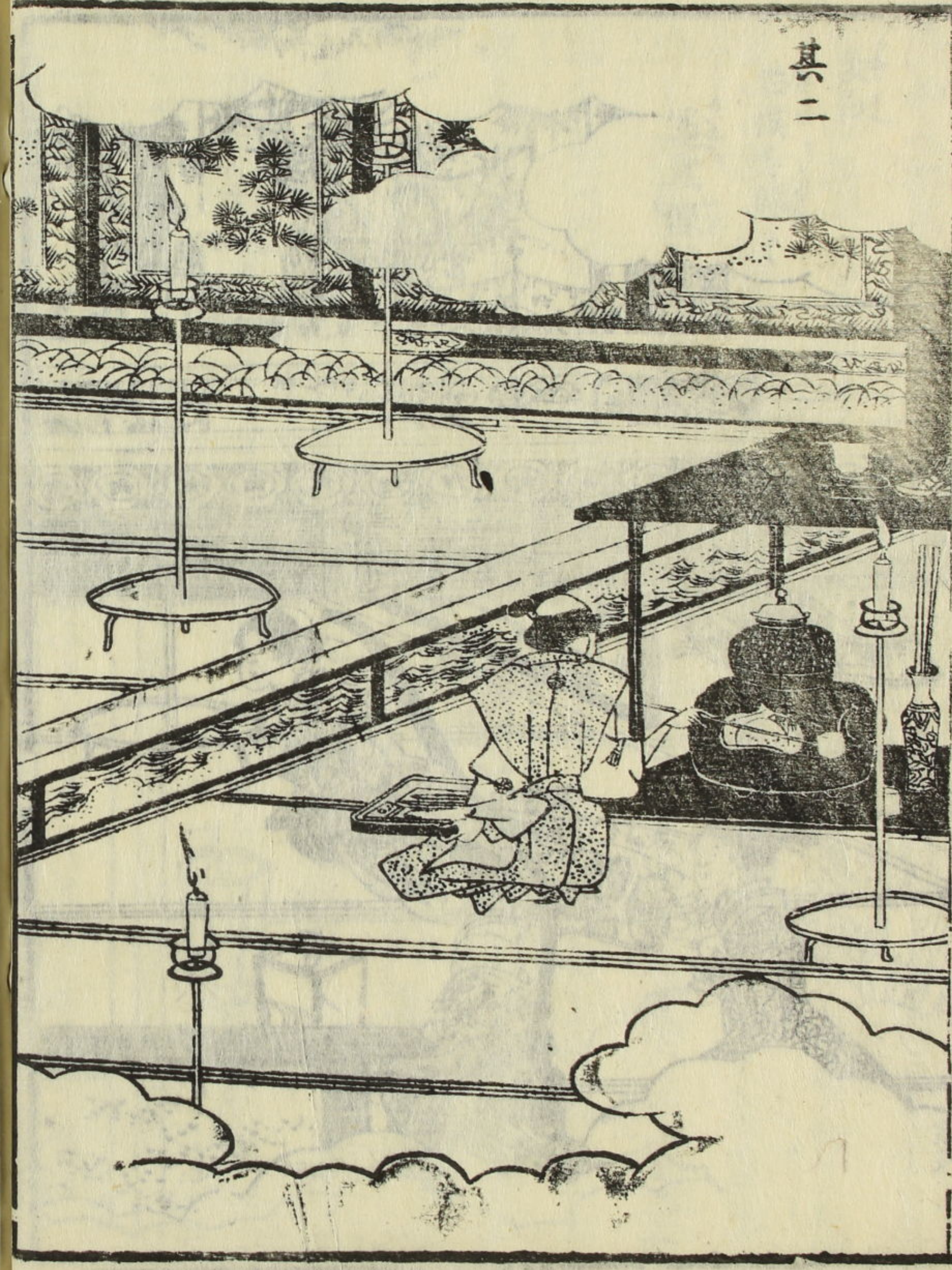


多
君侯を輔く
過
謀

合此...
三



三日月の夜



其二

金瓶梅詞話卷之

十五

彦法師と刑せられしを其罪小の當仕批判は之を依之る人の子に
 至く重れその身、誤て人を殺せば悔ても悔み及ばば悔之る人誰か
 を成さざるべき事、よはは彦法師即刑罰ありし不悔せられ人命の生死獨
 斷すく之の一方一完獄あらば國家長久之基時不壞是く終るに
 宗の功業空しとある一は不才ありて後先君の命とて君が輔佐し
 任小備れ其時年を月歳忽の清け状りや、あんが何事も取捨を
 加給ふ登れ有目としてや上々の事か、猶ふは後賢く國に勤まらば
 身く加ふる不悔の清奉勅あり是居が輔佐の任は堪ざる事又小作空しを
 難後成清さんと恐れ退去の依を強て後よりしありは後者又万幸
 也され兼忽の舉勅捷され伸くを悔すまなく速にわが恩甚感下給ひ
 添く添も成謝し給ひ衆臣の事は若身ありとて益成賜を為法海救則

小乃び大和守近人おまると時暫くや止給ひ後忠言およめく執思し小汝が
 同列二文甲斐守が心底其言得がく、所詮大任成付寄るに爰に申す
 汝が兼くといふも亦存あは陰にうらやま大和守側近く進み命のてく
 甲斐守執政の任不ゆめ彦法師即刑せられ、若願しめ女爲人等元膳侍
 居れ不其幸なく君をさす不降も終らば止先事、且今夕居へ對
 して此事へ後ト惟れども君をさす不降も終らば止先事、且今夕居へ對
 分給ひ侍もこれより其任不憂せざる、つとむくは志らば形ふ心申中
 其計は言ひ申す一二を収教ぐ、論する新政勢と輔す人伴不憂く
 惟れ久しき愚意成然り、惟も惟同列の依成格を奪ひ申す、此類人の
 程を畏るは清て梁が其智成防むに、此事深くとも存今日を口外
 候らざる事、君清心と付られし事、登り入に梁が過失逐一、迷ひりん事

海ノ下は不似ゆを忠共正邪の辨と君の聰明不似せざるし之ハ照
基長悦の伴ふく教も更ぬ是ハ体息まへし之出と賜へハ大和寺の所也
退とて居郊五律ぬ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

繪本金毘羅神靈記卷之一終

